

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471902963
法人名	社会福祉法人心の会
事業所名	さくらの家三番館
訪問調査日	令和2年11月30日
評価確定日	令和3年2月22日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902963	事業の開始年月日	平成18年1月1日	
		指定年月日	平成18年1月1日	
法人名	社会福祉法人心の会			
事業所名	さくらの家三番館			
所在地	(238-0026)			
	横須賀市小矢部四丁目15番7号			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和2年10月30日	評価結果 市町村受理日	令和3年3月5日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらの家三番館では近隣の方々を対象に、ビアガーデン・感謝祭・花火大会等を行い地域との交流をしております。定期的に行う行事のお手伝い、旅行の添乗など、地域の方々からのボランティア参加などが盛んです。外部の方々が無難に立ち寄れるホームを目指し、近隣の方々から随時評価して頂きながら事業所の運営を行っているところです。また動物福祉にも力を入れ、愛犬とご一緒のご入居受け入れも行っております。さらに地域密着の観点より、町内との交流・連携を図り入居者が地域の一員として生活が送れるように、町内の掃除、祭礼、町内餅つき、盆踊り、防災訓練等にも参加しております。衣笠山の自然豊かな環境のもとで皆様毎日元気にお過ごしいただけるよう散歩の支援も行っており、春は桜・秋は紅葉と近所をお散歩するだけで、身体一杯に季節を感じる事ができます。また、さくらの家三番館では介護相談等を随時受けつけております。

※ 上記行事についてですが、令和2年度はコロナウイルス対策にて行事を自粛しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和2年11月30日	評価機関 評価決定日	令和3年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は「社会福祉法人心の会」の経営です。同法人は、地域のボランティア組織を起源に、初めは知的障害者生活ホームを立ち上げ、その後現在の社会福祉法人を設立しました。横須賀市内で特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス・訪問介護・居宅介護支援・グループホーム等と、介護保険以外のサービスでは、就労継続支援・障害者グループホーム・障害者相談サポートセンター等と診療所があります。ここ「さくらの家三番館」は京浜急行線「横須賀中央駅」からバスに乗り「衣笠山公園バス停」で下車して徒歩10分（JR横須賀線「衣笠駅」より徒歩25分）の自然豊かな衣笠山公園近くの住宅地の中にあります。

●今年は新型コロナウイルスの影響で事業所の特徴あるサービスの1つである外出行事や地域との交流は感染症拡大防止のために実施することはできませんでした。職員一丸となって室内アクティビティの充実化を図ったり、普段とは違った料理（職員が寿司職人となって握り寿司の提供、スイーツバイキング、利用者参加型の手打ちうどん）を提供するなど、室内でも楽しく過ごせるレクリエーションや行事を企画・実行して利用者の笑顔を引き出せるよう心がけています。

●事業所では、認知症ケアのプロとして「認知症の知識、権利擁護、接遇、身体拘束・虐待、介護機器取り扱い」など様々なテーマで研修を行い（現在はコロナ禍のため各自レポート形式にて実施）、ユニット会議の場でプレゼンテーションやフィードバックで情報を共有しながら、より質の高いケアサービスを提供するために、職員の介護知識や介護技術の向上を図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	さくらの家三番館
ユニット名	2 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	諦めない福祉と医療（法人理念）充実した生活の場となる（さくらの家理念）地域との関わりを大切にとの理念がある。職員は買い物・散歩・近隣との交流などを理念に沿って実施している。	法人理念「諦めない福祉と医療」と事業所理念「充実した生活の場となる・地域とのかかわりを大切に」とした理念の下に、近隣の方々を対象にピアガーデン・感謝祭・花火大会などの行事開催、日常的な買い物や散歩を通じて地域とのつながりを感じていただきながら住み慣れた地域の中での暮らしを継続していただけるように支援しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	出勤時、散歩中の挨拶を励行し、実施している。外出行事や内部行事の時には、ボランティアとして協力が得られている。町内の清掃や祭礼、盆踊り、避難訓練など町内の行事にも参加している。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。	今年度は新型コロナウイルスの影響に伴い、地域との交流機会や関わりは持てていませんが、例年では地域の方を対象に開催しているピアガーデン・感謝祭・花火大会をはじめ、町内の祭礼・盆踊り・避難訓練などに参加して地域の方々との交流を図っています。管理者は全職員に地域の一員として出退勤時に会う地域の方にも挨拶するよう励行しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や地域の方を対象にピアガーデン・地域感謝祭など行っている。認知症介護の専門として地域に知識を広げ、理解をして頂くだけでなく、介護や認知症の相談を受けるようにしている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施している。事業所会議では、地域との意見交換を行い、そこで出たアイデアを取り入れ、防災訓練、地域感謝祭を実施し、サービスや地域密着などの向上につなげている。令和元年度から、身体拘束防止についての意見聴取をし、サービスに生かしている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で電話での意見交換をしている。	運営推進会議は家族・民生員・地域代表の方に声かけして2ヶ月に1回開催しています。事業所の現状や活動報告した後に質疑応答の時間を設けての意見交換、地域の情報やニーズの把握に努めています。令和元年度から身体拘束も議題に挙げて意見を聴取し、サービスの向上につなげています。今年度は新型コロナウイルスの影響により、書面と電話による開催となっています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催にあたり、横須賀市指導監査課担当者にお声をかけ、可能な限り来て頂き状況報告をし協力関係を築くように努めている。又、ケアやサービスについて疑問等は必要に応じ相談をするようにしている。 ※コロナウイルスの影響により、電話でのやり取りにて連携を図っている。	横須賀市指導監査課とは運営推進会議の開催にあたり、可能な限り参加いただけるよう声かけしています。研修や講習会の案内が届いた際には積極的に参加するよう心がけ、不明点が生じた際には担当者に連絡して相談に乗っていただくようにしています。運営推進会議への参加（議事録提出）や相談にのっていただいた際に事業所の実情を伝えることで、協力関係の構築に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、積極的に外部の研修や講習会に参加している。その後内部研修を行い正しい理解に努め、身体拘束のないケアを実施している。言葉の拘束についても介護職員で確認し合っている。身体拘束委員会を発足し意見を聴取し、フロア会議で落としている。令和2年度はコロナウイルスの影響により、集団での研修は自粛しているが、回覧形式の研修は実施していて、研修報告書を提出してもらっている。	身体拘束については、積極的に外部研修や講習会に参加し、身体拘束に該当する行為や弊害などについて学び、研修に参加した職員から資料を基に伝達研修を行い、情報を共有することで身体拘束のないケアを実践しています。事業所の年間研修で身体拘束について学び、理解を深めている他、身体拘束適正化委員会でも意見交換や共通認識を図っています。身体的拘束のみならず、言葉による拘束についてもフロア会議の中で話し合っています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する外部研修へ積極的に参加し、内容については、フロア会議で取り入れ現場の対応で問題がないか、常に確認している。虐待に関する自己チェックも実施して、理解できていない所を再確認している。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で外部研修は自粛中。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加やフロア会議でも取り上げ、フロアの職員にも制度について理解できるように取り組んでいる。成年後見制度については、現在対象者は数名活用している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約について、十分な説明を行った上で一度自宅に持ち帰って頂き、入居までに不明な点等がないか確認して頂く様になっている。契約内容に納得頂いた上で署名をして頂いている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書等変更がある場合、家族に説明、お知らせの配布をし、制度の改正や法人の方針などを報告している。細やかな意見については、面会時、電話等で意見聴取し、フロア会議にて検討して、運営に反映している。	入居時に重要事項説明書に記載している苦情相談窓口ならびに外部の相談窓口について説明しています。家族の意見・要望は面会時や電話連絡した際に近況報告と併せて聴取しています。利用者からの意見・要望については日々の関わりや入浴介助時などに話を聞いています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人調整会議に運営部長代行が参加して、さくらの家運営会議にてフロア会議等が出た意見を提案できる場が設けられている。また、積極的に職員の意見等を集約して、反映に努めサービスや働きやすい職場環境の向上に努めている。	管理者は、月1回のフロア会議で職員の意見や提案を集約しており、内容に応じて毎月開催される「法人調整会議」や「さくらの家運営会議」に諮り、結果を職員に伝えています。管理者は、フロア会議のみならず、日々の業務や休憩時間にも職員から意見や提案を聴取するなど、働きやすい職場環境作りに努めています。さらに、年1回の「職員総会」や定期的な個人面談も実施しています。今年度は、新型コロナウイルスの影響により職員総会は自粛しています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年法人の職員総会があり、管理者が推薦した職員の表彰がある。新たな資格の取得者には、手当と表彰があり、全ての職員に対し人事考課を行い昇格などの機会も得られるなど環境や条件が整備されている。※令和2年度はコロナウイルスの影響で職員総会は自粛中。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルアップに必要な研修については本部より要請があり、管理者が適正に応じて常勤・非常勤職員に勉強の機会を設けている。職員からの研修参加希望も取り入れている。※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市には、グループホーム連絡協議会があり研修会を実施している。年2回グループホーム協議会の役員が出席しエリアごとの会議を行いエリアでの問題や意見を協議会で集約し検討している。令和2年度グループホーム協議会は退会しましたが、他事業所との交流は継続している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、事業所の特徴などをご本人様に説明し、困難なことや要望を聴いている。管理者が自宅へ訪問し、入居前から信頼関係の構築に努め、安心して利用して頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際には、ご家族様の話を良く聞き、信頼関係をつくる努力をするとともに、ご家族様のニーズなどを理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや見学、電話での相談の際にしっかりと状況をお聞きして、生活における困難などの理解に努め、必要に応じたアドバイスをする様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	若いころの話や知恵など沢山の事を教えて頂いただきながら、日々の家事活動を一緒に行い、入居者様が充実した人生を送る事が出来るよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面・医療面共に職員のみ意見だけではなく、ご家族と相談しながら行う。受診や行事などにも参加して頂くなど共に支え合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の支援を行い、馴染みの関係が途切れない様になっている。面会・外出・外泊希望も常に受け入れて、ゆっくりと過ごして頂ける様にしている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛しているが、段階的に緩和している。	今年度は新型コロナウイルスの影響に伴い、感染症拡大防止の観点から、面会は制限していますが、希望があれば手紙や電話の支援を行っています。以前までは、家族や友人などの面会は常に受け入れており、馴染みの関係が途切れないよう支援していました。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や行動などを把握して、トラブルを未然に回避するようにしている。座席など環境を工夫して、気の合う方との会話の機会を作っている。また、職員が間に入る事で孤立する事なく、誰もが楽しめる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方への面会や電話での安否確認・お葬式などに参加させて頂き、関係が継続できる様に経過のフォローに努めている。ご逝去され退居された入居者のご家族が現在も朗読などのボランティアを続けて頂いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や家族からの情報、ご本人様の思いや希望などを聞き、職員全員で把握に努めている。困難な方でも表情・行動などから察して、ご本人様の思いに沿えるようにフロア会議等で出来る事を見つけ支援につなげている。	入居前面談時に、本人・ご家族から過去の生活歴や既往歴、ADL・IADL、趣味嗜好、暮らし方の希望について話を聞き、その方の思いや意向に沿った支援を心がけています。意思表示ができる方には日々の会話の中から思いや意向を汲み取り、困難な方は表情や反応を見ながら職員間で情報を共有し、本人本位に検討しながら思いや意向に沿った支援につなげています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初に把握している生活歴と、生活の中でのご本人様との会話から、昔の暮らし方や生まれた場所の環境などを聞いたりして、新たな情報を集めている。ご家族様からも、情報収集を行い馴染みの暮らしが出来るように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を記録し個人の症状や状態の把握に努めている。毎日の申し送り、毎月のカンファレンス、フロア会議にて症状確認・状態把握など情報の共有をし、一人一人に合わせたケアを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する時には、ご家族の希望やご本人様との会話などから、希望に沿って検討している。医師にも相談して、様々な角度から検討し、その人らしい生活が送れる様になっている。	入居前のアセスメントで得られた情報を基に介護計画を作成し、作成した介護計画の内容に沿って支援を行いながら経過を観察を行い細かな情報を収集しています。フロア会議で、ケアの課題などを明確にして共通認識を図り、その方の自立に向けた介護計画を作成し、その人らしい生活が送れるよう支援しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践・結果・気づき等は、個別の記録に記入し、申し送りにて毎日新しい情報の共有をしている。更に記録をもとに会議を通して、介護計画の検討・見直しに活用している。医療は赤ペンを利用して見易さなどの工夫を行い、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス・特別養護老人ホーム等を併設しており、デイサービス、特別養護老人ホームの外出行事やイベントへの参加も行なっている。さくらの家独自の行事計画や個別の買い物・ドライブ等を実施している。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアとの交流が盛んなことから、お互いが顔見知り散歩など安心して楽しむ事が出来ている。町内の保育園のイベントに招待され交流を図っている。町内の祭礼ではさくらの家が休憩所となり、お祭りに参加する事ができている。更に町内の盆踊りにも招待して頂いている。 ※令和2		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望のかかりつけ医を基本にしている。心身の状況に変化等が見られる様ならば、かかりつけ医に相談し、紹介などで専門医へ移行する際は、ご家族様の納得の上で変更をして頂き、適切な医療が受けられる様にしている。	入居時に協力医療機関について説明した後に、利用者・家族の意向を確認し、利用者・家族の意向を尊重して主治医を決めていただいています。顧問医師の往診が月2回あり、職員として配置している看護師の巡回は週3回あり、利用者の健康管理を行っています。顧問医師による医療支援は24時間体制となっています。月1回歯科医の往診、週2回メンタルクリニックの往診もあり、適切な医療が受けられるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さくらの家全体を把握している看護職員を中心に健康面と医療面のケアをしている。連携が取れていることから、心身の安定や早期医療への対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・医師とカンファレンスを行い、事業所で出来る対応を話し合い、早期退院が出来るように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明に重度化・看取りに関してを具体的に明記し、事業所で出来る対応を明確にしている。かかりつけ医とも協力し、ご家族様の希望に沿う様、身心の変化が見られた際には、随時カンファレンスを実施している。	入居時に重度化や看取りに関する指針について説明し、事業所で出来ること出来ないことについて明確にしたうえで契約を交わしています。重度化した場合は家族・医師・事業所で話し合いの場を設け、同法人の特養への入居も含めた様々な選択肢を提案しながら方向性を決め、家族の意向に沿った支援を行っています。看取りを行う際は同意書をいただき、安らかな最期を迎えられるよう支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様一人一人の緊急マニュアル・応急手当マニュアルを作成して、速やかに対応できるように工夫している。各ユニットごとに内部研修を行い、緊急時等の対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域住民に参加協力してもらい、避難誘導・初期消火などを行っている。夜間を想定した訓練も含めておこなっており、事業所の防災訓練としては年2回実施している。	年2回、日中・夜間想定で防災訓練を実施しています。うち1回は消防署の立会いの下、指導を受けながら、消火訓練・避難訓練・通報訓練等を行っています。事業所の訓練には、利用者家族や民生委員等の地域の方々にも参加をお願いし、また、地域の避難訓練に職員が参加しています。備蓄は、3日分の米、水、缶詰等の食料や衛生用品、ヘルメット、毛布、カセットコンロなどの防災用品を準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活全体をご本人様の希望と在宅と同じ暮らしの継続ができるような声掛けをし、自己決定できるようにしている。プライバシーについては、ご本人様を傷つける事がないよう、職員同士で状況確認をしている。	基本指針に「主役はご入居様」と掲げており、管理者は利用者の自尊心に配慮した礼儀正しい姿勢で接するよう、職員に日頃から伝えています。外部の研修にも積極的に職員の参加を促し、内部研修で共通認識を図りながら人格やプライバシー損なわないケアに努めています。また、入浴介助やトイレ介助時には羞恥心に配慮しながら対応しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物などご本人様の希望を選択出来る場面を作った支援している。「どうされますか」などの様に自己決定のできるような声かけをしている。入居者様に聞く時は待つことを大切にしている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間を設ける事無く自由にして頂いている。家事や散歩・入浴時間は希望に添えるよう職員の勤務時間を調整して行い家事や散歩についてもご本人様のペースに合わせて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護優先ではなく、ご本人様が気に入っているものを身につけてもらっている。ワンピース・スラックスなど好みや馴染みの服装をして頂き、日々のお化粧品や外出時のお化粧の支援をしている。理美容では、希望に沿った髪型や毛染めをしていただいている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの意欲を生かして、出来ることを主体に、食事作りや盛り付けなどの食事の支度を一緒に行っている。食後の片付けも一緒に行っている。	事業所では、食への関心を高めることで生きがいや楽しさを持って生活していただけるよう、特に力を入れています。栄養士と管理者が1ヶ月単位でメニューを作成し、季節の食材を取り入れたメニュー、時には利用者の希望を取り入れた食事を提供しています。出来る方には、盛り付け、下膳、片付けなどに参加していただき、残存能力の維持につなげています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた献立に沿って行っている。水分の不足がちの方には、チェック表を作成し確保出来るように支援している。個別に、減塩・捕食・形態別・減量などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力により、声かけ・誘導・介助などに分けて実施している。義歯を使用している方には、洗浄剤などの支援もしている。必要な方については、月1回歯科医による口腔ケアを行っている。※令和2年度はコロナウイルスの影響で歯科医師による口腔ケアは自粛中。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表などを用いて把握し、声かけ・定期的なトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めている。 ※神奈川県からの依頼を受け、膀胱センサーを用いた排泄支援に向けてのモニターとして、半年にわたりプロジェクトに参加した。	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らった声かけ・定時によるトイレ誘導にて排泄失敗の軽減に努めています。事業所では、極力オムツの使用を控え排泄の自立支援に向けた支援に注力しています。神奈川県から依頼を受け、膀胱センサーを用いた排泄支援に向けてのモニターとして、半年にわたりプロジェクトにも参加しました	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理が必要な方には、排泄表をつけ、便秘の予防と対応をしている。繊維物や水分の摂取・運動、ラジオ体操・横須賀体操など個別に行い予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の意向を調査し、個々に合わせた入浴ができるように支援している。職員の都合で曜日を決めたり、時間を決めたりはしていない。入りたくない場合もある為、自己決定できるように、「お風呂いかがですか?」と聞くようにしている。	週2回入浴を基本として、清潔の保持に努めています。入浴を行うにあたり、職員の都合で日時を決めたりするのではなく、利用者の意向を尊重しながら気持ちよく入浴していただくことを心がけています。時には入浴剤や季節の湯なども行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息を取って頂いている。食後の休憩など、体力などに合わせている。就寝起床時間は生活リズムに合わせて、個々のタイミングで支援し、安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人別にファイリングしており、薬の確認を出来る様にしている。重要な薬等については、会議や申し送り簿等で効果・副作用などの説明をしている。内容に沿って全職員で変化などの観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割が見出せる様に、習字や漢字、犬の散歩、家事など得意としている事への場面づくりや個別の買い物、墓参りやバス旅行などにも参加できるように支援をしている。天気の良い日の散歩や飲み物などの嗜好品の提供なども支援をしている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	ご家族様の協力により、外食やカラオケなど外出をして頂くケースもある。また、地域の方（ボランティア）の協力を得る事で外出する事ができている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。	今年度は新型コロナウイルスの影響で外出は自粛していますが、以前は家族の協力を得ながら外食やカラオケに出かけている方、地域の方（ボランティア）の協力も得ながら外出支援を行うなど、外気に触れる機会を設けています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことは社会参加として大切なので、能力に応じてご自身で買い物をして頂いている。会計についても本人の力に合わせ支援している。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	法人の電話で希望に沿って電話をかけたり、受けた電話を本人に回す支援をし、手紙も自由にやり取り出来る様にしている。又、必要に応じて代筆等の支援もしている。	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家全体が落ち着いた家庭的な雰囲気になっている。照明にも刺激の無いように配慮している。ご入居者様の馴染みのある物や季節の草花・作品などを飾り、温かい空間作りを行なっている。	共用部は中央部がガラス張りの吹き抜けになっており、明るく開放感が感じられる空間になっています。1階は趣味の生け花ができる談話室（さくらんぼ）、2階は共用の畳の居間があり、利用者が思い思いに過ごせる場所も確保されています。床暖房も完備されており、空調や換気などにも留意しながら居心地の良い空間を心がけています。
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるソファやテーブル・イス・セミパブリックスペースがある。お茶を飲んだり、本を読んだり、入居者様同士が過ごしたり、1人になれる場所を確保している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を自由に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂ける様にしている。ご家族様と相談し、安全なども良く考え、生活しやすい様に工夫している。	各居室には、ベッド・エアコン・タンス・洗面台・防火カーテンが完備されています。居室を自分の家として生活していただくため、入居時には、馴染みの使い慣れたものを持ち込んでいただくように勧めています。家族の写真、テレビや仏壇を持ち込んでいる方もおり、居心地よく過ごせるよう居室作りが行われています。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握して、家具等で歩行の導線の工夫を行い、車イスなどを使用しなくても生活できる様に支援している。部屋の入口に名札等を飾って自室の確認が出来る様にしている。	

目標達成計画

事業所

さくらの家三番館

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	さくらの家三番館
ユニット名	2 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	諦めない福祉と医療（法人理念）充実した生活の場となる（さくらの家理念）地域との関わりを大切にとの理念がある。職員は買い物・散歩・近隣との交流などを理念に沿って実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤時、散歩中の挨拶を励行し、実施している。外出行事や内部行事の時には、ボランティアとして協力が得られている。町内の清掃や祭礼、盆踊り、避難訓練など町内の行事にも参加している。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や地域の方を対象にピヤガーデン・地域感謝祭など行っている。認知症介護の専門として地域に知識を広げ、理解をして頂くだけでなく、介護や認知症の相談を受けるようにしている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施している。事業所会議では、地域との意見交換を行い、そこで出たアイデアを取り入れ、防災訓練、地域感謝祭を実施してサービスや地域密着などの向上につなげている。令和元年度は、身体拘束防止についての意見聴取をし、サービスに生かしている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で電話での意見交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催にあたり、横須賀市指導監査課担当者にお声をかけ、可能な限り来て頂き状況報告をし協力関係を築くように努めている。又、ケアやサービスについて疑問等は必要に応じて相談をするようにしている。 ※コロナウイルスの影響により、電話でのやり取りにて連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、積極的に外部の研修や講習会に参加している。その後内部研修を行い正しい理解に努め、身体拘束のないケアを実施している。言葉の拘束についても介護職員で確認し合っている。身体拘束委員会を発足し意見を聴取し、フロア会議で落としている。令和2年度はコロナウイルスの影響により、研修は自粛している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての外部研修へ積極的に参加し、内容については、フロア会議で取り入れ現場の対応で問題がないか、常に確認している。虐待に関する自己チェックも実施して、理解できていない所を再確認している。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で外部研修は自粛中。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加やフロア会議でも取り上げ、フロアの職員にも制度について理解できるように取り組んでいる。成年後見制度対象の入居者様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約について、十分な説明を行った上で一度自宅に持ち帰って頂き、入居までに不明な点等がないか確認して頂く様になっている。契約内容に納得頂いた上で署名をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書等変更がある場合、家族に説明、お知らせの配布をし、制度の改正や法人の方針などを報告している。細やかな意見については、面会時、電話等で意見聴取し、フロア会議にて検討して、運営に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人調整会議に運営部長代行が参加して、さくらの家運営会議にてフロア会議等が出た意見を提案できる場が設けられている。また、積極的に職員の意見等を集約して、反映に努めサービスや働きやすい職場環境の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年法人の職員総会があり、管理者が推薦した職員の表彰がある。新たな資格の取得者には、手当と表彰があり、全ての職員に対し人事考課を行い昇格などの機会も得られるなど環境や条件が整備されている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で職員総会は自粛中。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルアップに必要な研修については本部より要請があり、管理者が適正に応じて常勤・非常勤職員に勉強の機会を設けている。職員からの研修参加希望も取り入れている。※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市には、グループホーム連絡協議会があり研修会を実施している。年2回グループホーム協議会の役員が出席しエリアごとの会議を行いエリアでの問題や意見を協議会で集約し検討している。令和2年度グループホーム協議会は退会しましたが、他事業所との交流は継続している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、事業所の特徴などをご本人様に説明し、困難なことや要望を聴いている。管理者が自宅へ訪問し、入居前から信頼関係の構築に努め、安心して利用して頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際には、ご家族様の話を良く聞き、信頼関係をつくる努力をするとともに、ご家族様のニーズなどを理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや見学、電話での相談の際にしっかりと状況をお聞きして、生活における困難などの理解に努め、必要に応じたアドバイスをする様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	若いころの話や知恵など沢山の事を教えて頂いただきながら、日々の家事活動を一緒に行い、入居者様が充実した人生を送る事が出来るよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面・医療面共に職員のみ意見だけではなく、ご家族と相談しながら行う。受診や行事などにも参加して頂くなど共に支え合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の支援を行い、馴染みの関係が途切れない様にしている。面会・外出・外泊希望も常に受け入れて、ゆっくりと過ごして頂ける様にしている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛しているが、段階的に緩和している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や行動などを把握して、トラブルを未然に回避するようにしている。座席など環境を工夫して、気の合う方との会話の機会を作っている。また、職員が間に入る事で孤立する事なく、誰もが楽しめる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方への面会や電話での安否確認・お葬式などに参加させて頂き、関係が継続できる様に経過のフォローに努めている。ご逝去され退居された入居者のご家族が現在も朗読などのボランティアを続けて頂いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や家族からの情報、ご本人様の思いや希望などを聞き、職員全員で把握に努めている。困難な方でも表情・行動などから察して、ご本人様の思いに沿えるようにフロア会議等で出来る事を見つけ支援につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初に把握している生活歴と、生活の中でのご本人様との会話から、昔の暮らし方や生まれた場所の環境などを聞いたりして、新たな情報を集めている。ご家族様からも、情報集を行い馴染みの暮らしが出来るように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を記録し個人の症状や状態の把握に努めている。毎日の申し送り、毎月のカンファレンス、フロア会議にて症状確認・状態把握など情報の共有をし、一人一人に合わせたケアを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する時には、ご家族の希望やご本人様との会話などから、希望に沿って検討している。医師にも相談して、様々な角度から検討し、その人らしい生活が送れる様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践・結果・気づき等は、個別の記録に記入し、申し送りにて毎日新しい情報の共有をしている。更に記録をもとに会議を通して、介護計画の検討・見直しに活用している。医療は赤ペンを利用して見易さなどの工夫を行い、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス・特別養護老人ホーム等を併設しており、デイサービス、特別養護老人ホームの外出行事やイベントへの参加も行なっている。さくらの家独自の行事計画や個別の買い物・ドライブ等を実施している。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアとの交流が盛んなことから、お互いが顔見知りです散歩など安心して楽しむ事が出来ている。町内の保育園のイベントに招待され交流を図っている。町内の祭礼ではさくらの家が休憩所となり、お祭りに参加する事ができている。更に町内の盆踊りにも招待して頂いている。 ※令和		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望のかかりつけ医を基本にしている。心身の状況に変化等が見られる様ならば、かかりつけ医に相談し、紹介などで専門医へ移行する際は、ご家族様の納得の上で変更をして頂き、適切な医療を受けられる様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さくらの家全体を把握している看護職員を中心に健康面と医療面のケアをしている。連携が取れていることから、心身の安定や早期医療への対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・医師とカンファレンスを行い、事業所で出来る対応を話し合い、早期退院が出来るように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明に重度化・看取りに関してを具体的に明記し、事業所で出来る対応を明確にしている。かかりつけ医とも協力し、ご家族様の希望に沿う様、身心の変化が見られた際には、随時カンファレンスを実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様一人一人の緊急マニュアル・応急手当マニュアルを作成して、速やか対応できるように工夫している。各ユニットごとに内部研修を行い、緊急時等の対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域住民に参加協力してもらい、避難誘導・初期消火などを行っている。夜間を想定した訓練も含めておこなっており、事業所の防災訓練としては年2回実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活全体をご本人様の希望と在宅と同じ暮らしの継続ができるような声掛けをし、自己決定できるようにしている。プライバシーについては、ご本人様を傷つける事がないよう、職員同士で状況確認をしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物などご本人様の希望を選択出来る場面を作った支援している。「どうされますか」などの様に自己決定のできるような声かけをしている。入居者様に聞く時は待つことを大切にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間を設ける事無く自由にして頂いている。家事や散歩・入浴時間は希望に添えるよう職員の勤務時間を調整して行い家事や散歩についてもご本人様のペースに合わせて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護優先ではなく、ご本人様が気に入っているものを身につけてもらっている。ワンピース・スラックスなど好みや馴染みの服装をして頂き、日々のお化粧品や外出時の化粧品の支援をしている。理美容では、希望に沿った髪型や毛染めをしていただいている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの意欲を生かして、出来ることを主体に、食事作りや盛り付けなどの食事の支度を一緒に行っている。食後の片付けも一緒に行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた献立に沿って行っている。水分の不足がちの方には、チェック表を作成し確保出来るように支援している。個別に、減塩・捕食・形態別・減量などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力により、声かけ・誘導・介助などに分けて実施している。義歯を使用している方には、洗浄剤などの支援もしている。必要な方については、月1回歯科医による口腔ケアを行っている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で歯科医		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表などを用いて把握し、声かけ・定期的なトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めている。 ※神奈川県からの依頼を受け、膀胱センサーを用いた排泄支援に向けてのモニターとして、半年にわたりプロジェクトに参加した。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理が必要な方には、排泄表をつけ、便秘の予防と対応をしている。繊維物や水分の摂取・運動、ラジオ体操・横須賀体操など個別に行い予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の意向を調査し、個々に合わせた入浴ができるように支援している。職員の都合で曜日を決めたり、時間を決めたりはしていない。入りたくない場合もある為、自己決定できるように、「お風呂いかがですか？」と聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息を取って頂いている。食後の休憩など、体力などに合わせている。就寝起床時間は生活リズムに合わせて、個々のタイミングで支援し、安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人別にファイリングしており、薬の確認を出来る様にしている。重要な薬等については、会議や申し送り簿等で効果・副作用などの説明をしている。内容に沿って全職員で変化などの観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割が見出せる様に、習字や漢字、家事など得意としている事への場面づくりや個別の買い物、墓参りやバス旅行などにも参加できるように支援をしている。天気の良い日の散歩や飲み物などの嗜好品の提供なども支援をしている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力により、外食やカラオケなど外出をして頂くケースもある。また、地域の方（ボランティア）の協力を得る事で外出する事ができている。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことは社会参加として大切なので、能力に応じてご自身で買い物をして頂いている。会計についても本人の力に合わせ支援している。 ※令和2年度はコロナウイルスの影響で自粛中。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	法人の電話で希望に沿って電話をかけたり、受けた電話を本人に回す支援をし、手紙も自由にやり取り出来る様にしている。又、必要に応じて代筆等の支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家全体が落ち着いた家庭的な雰囲気になっている。照明にも刺激の無いように配慮している。ご入居様様の馴染みのある物や季節の草花・作品などを飾り、温かい空間作りを行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるソファやテーブル・イス・セミパブリックスペースがある。お茶を飲んだり、本を読んだり、入居者様同士が過したり、1人になれる場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を自由に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂ける様にしている。ご家族様と相談し、安全なども良く考え、生活しやすい様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握して、家具等で歩行の導線の工夫を行い、車イスなどを使用しなくても生活できる様に支援している。		

目標達成計画

事業所

さくらの家三番館

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。